

国内外規格・認証制度研究会(第14回) 議事録

日時:2010年3月9日(火) 15:30~17:30

場所:富士通総研会議室(竹芝)

出席者:黄野様、高橋(哲)様、大月様、折笠様、増田様、田代様、三島様、太田様、荒野様、石川(記録)...10名

(1)最新情報共有、黄野様

・TC-8: Ships and marine technology (船舶及び海洋技術)のISO/DPAS 28002 (Security management systems for the supply chain - Development of resiliency in the supply chain - Requirements with guidance for use)に関する話題

(2)ISO/PAS22399内容検討、要点分析(2)

(2-1)BCP文書とPAS22399について(1):高橋(哲)様

- ・建築BCPマニュアルとISO/PAS22399の項番及び項目の比較
- ・規格の良い部分、足りない部分を切り口として分析
 - ・建築BCPの不足部分は「経営トップの関与」を規定していない等、数項目があった
 - ・規格の不足部分は地域との協調・地域貢献、共助、相互扶助、備蓄など

(2-2)BCP文書とPAS22399について(2):石川

- ・電気製造業BCPマニュアルとISO/PAS22399の項番及び項目の比較
- ・規格とレジリエンシーの関連性を切り口に分析
- ・規格の計画段階のアウトプットであるBCP文書(インシデント準備戦略、IMP、BCP(OCP))の内容の成熟度はレジリエンシーと直接かかわる
- ・組織の目的はレジリエンシー成熟度向上である、レジリエンシー向上に寄与する規格項目を抽出し、レジリエンシー成熟度評価が出来る指標を定義することにより、この指標を元に組織のレジリエンシーを継続的改善できる可能性がある

(2-3)PDCAについて:大月様

- ・システムとマネジメントサイクル、ユーザー(経営者)視点からのISO疑義
- ・マネジメントは組織をdirectし、controlするためのcoordinate活動
- ・トップマネジメントは、ビジネス上の「機会とリスク」を把握する
- ・コントロールするために、ビジネス機能(1次機能、2次機能、3次機能など)を、P-D-C-Aでみる
- ・マネージングフェーズのP-D-C-Aと現場対応活動のD-C-A-D-C-Aの違い
- ・科学は、対象の定義から始め、その後に対象を研究するための概念やツールを作り上げることに着手する。ISOは、他の学問の借用から始まった。制御など、他世界の技法が、標準化に利用できる、ここから始まった。ゆえに、対象の定義をしていない

(3)今後の方針検討

- ・4月16日BCAO研究発表会資料案の審議 提案の内容で了承

(4)その他

- ・次回開催日 5月12日(水) 15:30~ 竹芝、富士通総研

以上